



株木建設株式会社 東京本店
土木部 所長

依田 修司

昭和57（1982）年に株木建設株式会社に
入社。以来、トンネル工事、河川工事、
ダム工事などを経て現職。

かけだしの頃

今だから
話せる
ゲンバ
の失敗
10

入社以来、忘れられない失敗はいくつ
ありますが、今からお話するのはその
なかでも最も大きなものです。

あれは入社五年目の頃、二十七歳のと
きだったと思います。担当主任になつて
二度目の現場で、土中の下水管を傷つけ
てしまったという苦い経験があります。

送配水管新設工事を請け負いまして、
まずは仮設の山留をつくるために、夜間
にH鋼を打設することになりました。そ
れで、たまたまその現場が土中に岩な
どが混じっているようなあまりよくない
地盤だったものですから、オーガーを使っ
て先に掘削しておいて、そこにH鋼を入
れることにしたんです。ところが、その掘
削の段階で土中にある下水管——確か直
径二五〇mmほどの塩ビ管だったと思いま
すが——を傷つけてしまって、それで周
囲に大変な迷惑をかけてしまったのです。

もちろん、こちらがオーガーを使って
作業する場所に下水管が埋まっていると
いうことは、事前に発注者から支給され
た図面で知っていました。ところが、こ
の工事は今でも語り継がれるほど工期が
きつい現場で、埋設物がある工事の基本
ともいえる試掘を行う余裕がまったくな
かった。この試掘を行えなかったことに、
今回の失敗の本質があるわけです。

発注者から支給された図面によれば、
土中にある下水管とオーガーを使って開
ける穴との距離は、最も近いところで約

四〇cm。オーガーを慎重に使いさえすれ
ば、その距離なら何ら問題はないはずで
した。しかし、実際には下水管が壊れて
しまった。

ですから、昔から先輩方がいわれると
おり、土の中のことは「開けてみなければ
本当のところはわからない」のであつ
て、事前に与えられた図面などを鵜呑み
にして作業することは決してやってはな
らない。この基本中の基本ともいふべき
教えを、いくら時間がなかったとはいえ、
どうして自分は守れなかったのかと思つ
と、今でも不思議でならないのです。

結局、問題の下水管は、夜が明けてか
らその日のうちに緊急工事を行つて、な
んとか復旧したのですが、試掘を行う以
上にかえって時間や経費がかかってしま
い、かなりのロスを生み出す結果となつ
てしまいました。これが今の時代であれ
ば、埋設物は、上下水管はおろか光ケー
ブルなどもあるわけですから、埋設物を
万が一にも壊してしまったときには、ど
れだけ発注者や近隣住民に迷惑をかけて
しまうか、しつかり肝に銘じなければな
らない。

その後、こういうミスは私の周囲では
起きていませんが、それでも現場に出る
後輩には、必ず試掘調査を行うよう、口
がすっぱくなるほどいっています。

現場での確認の大切さと埋設物の怖さを
思い知らされた忘れられない出来事です。